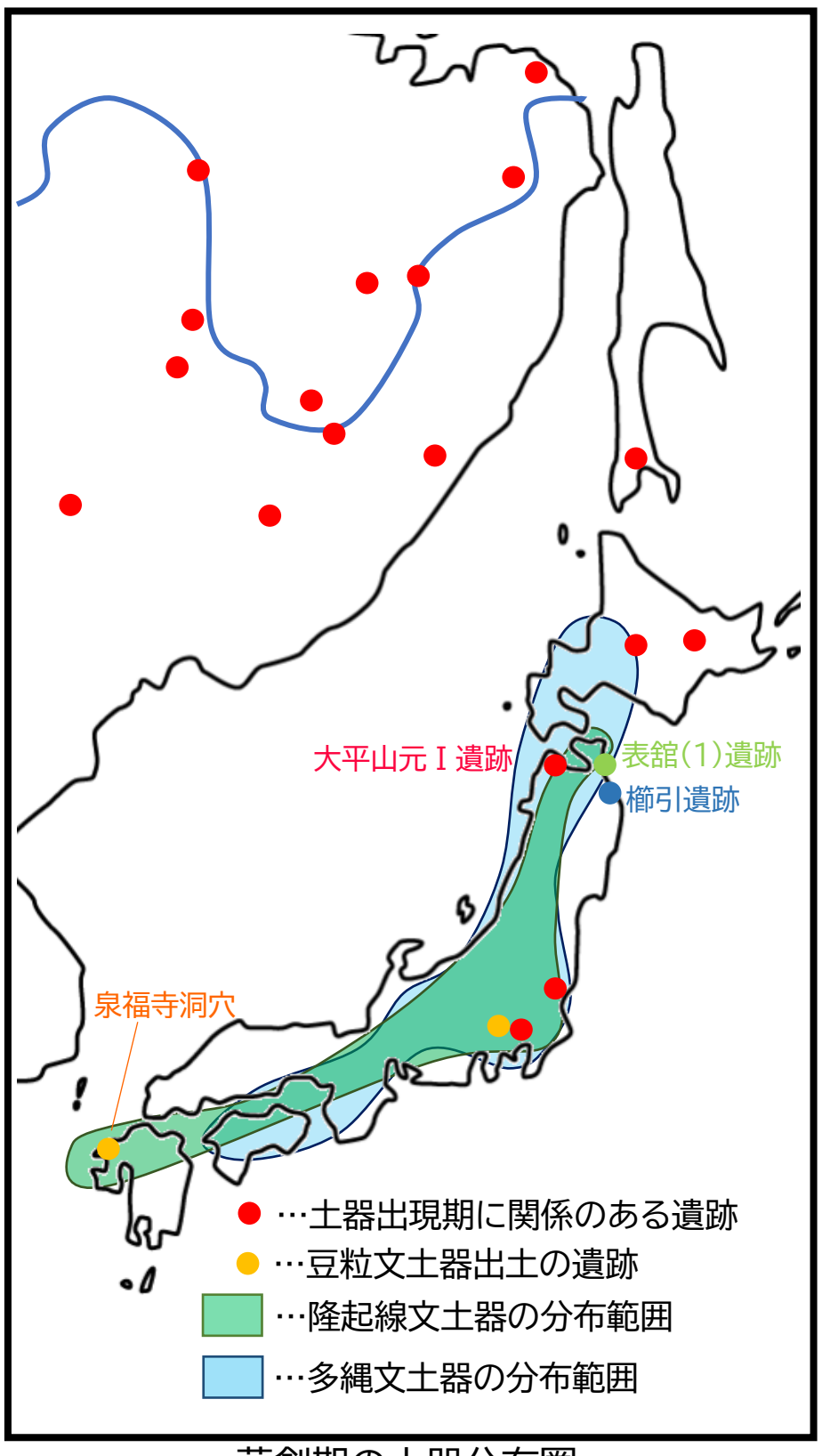
草創期の主な土器

約 16,500 年前～
約 11,200 年前



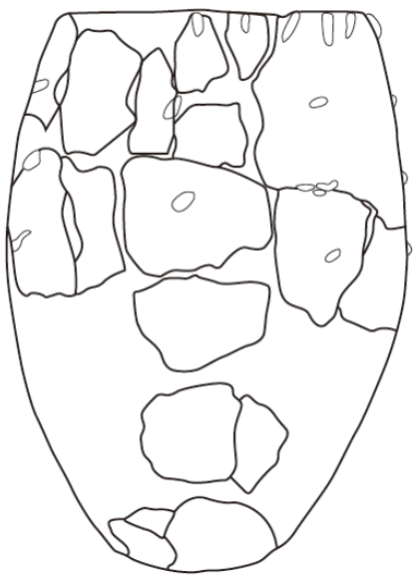
草創期の土器分布圏

1 出現期土器群:約 16,500 年前

青森県 大平山元遺跡 出土

世界最古級の土器。主にヘラ、串で、無数に斜めの線をつける。このような条痕文をつけた土器が樺太島やアムール川流域のオシポフカ文化に類似し、大陸とのつながりが考えられている。

2 豆粒文土器:約 16,500 年前



長崎県 泉福寺洞穴 出土

名前の通り、豆粒のような文様が、器面についている。1973 年に長崎県の泉福寺洞穴より出土し、隆起線文土器より古いことが分かった。

3 隆起線文土器:約 12,700 年前

青森県 表舘（1)遺跡 出土

器全体に、薄く細長い隆起線文がついている。このような文様は、ヘラや指で複数の線を引き、その隙間の凸部によって描かれているといわれている。

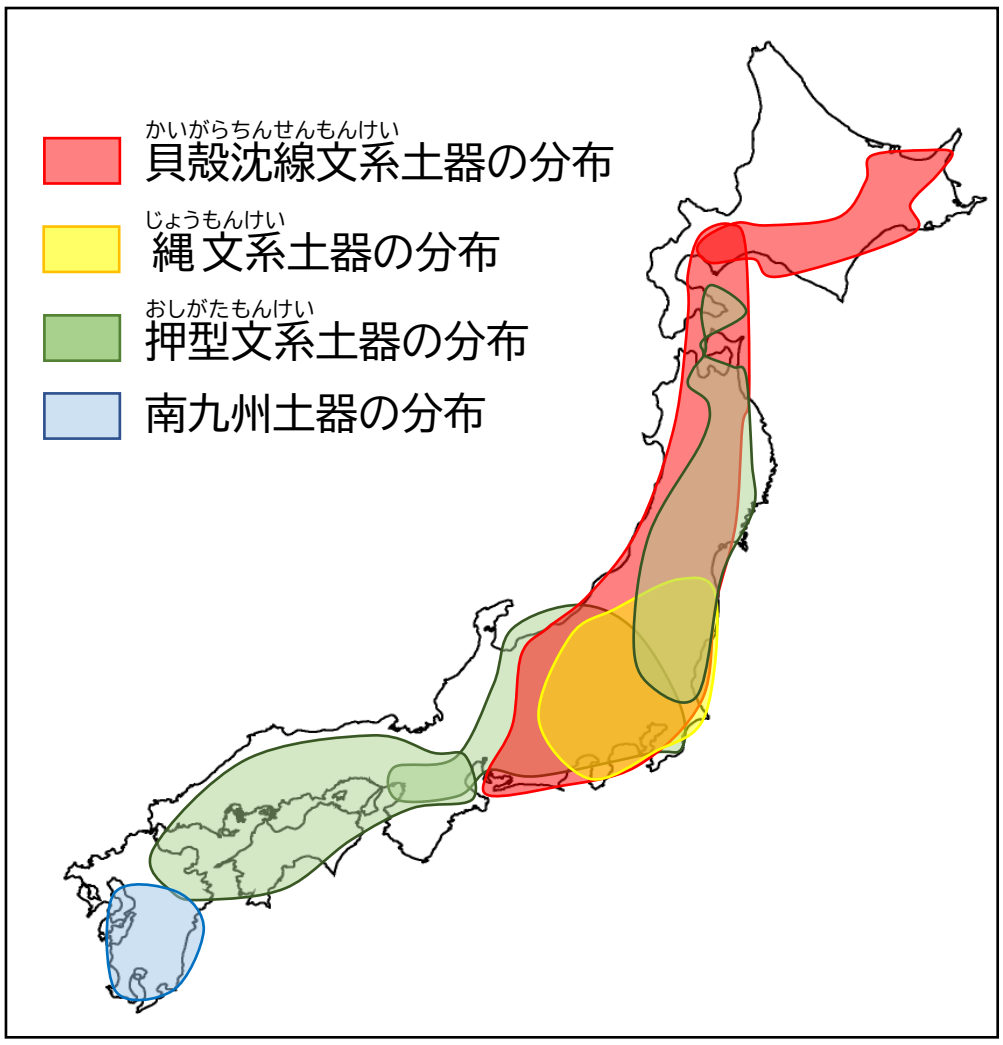
4 多縄文土器:約 11,200 年前

青森県 櫛引遺跡 出土

縄文がつく最古の土器。底が丸い、または平ら。15 種類の縄目、ヘラなどの棒状工具、指の爪など、多様な文様が見られる。

縄文土器の起源は、いまだに謎！

早期前半の主な土器　約 11,200 年前～



早期前半の土器分布圏

1　白浜式土器：約 9,000 年前

表館遺跡　出土

白浜式土器は、上部に無数の点列をつけ、下腹部にサルボウのようなうね（放射肋）のある貝殻の表面をあてた貝殻条痕文がつく。

2　根井沼式土器：約 9,000 年前

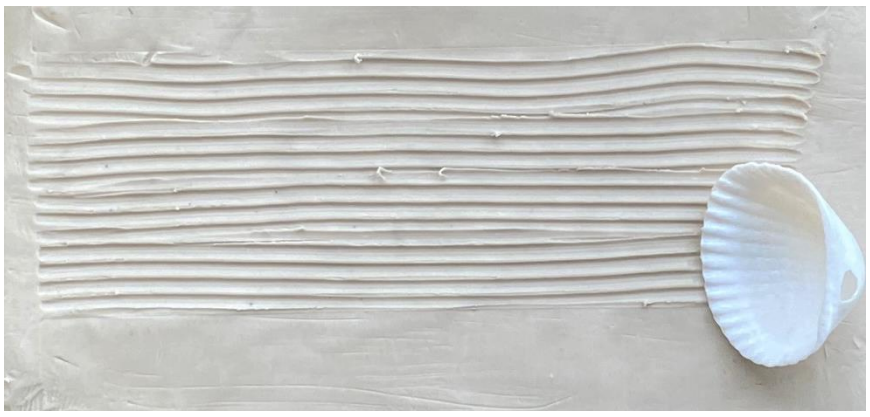
千歳（13）遺跡　出土

底が尖る。上部に無数の点列をつけ、サルボウなどの貝殻のフチを使って貝殻腹縁文がつく。また、縄の押圧文が器の縁につけられる。

3　物見台式土器：約 9,000 年前

千歳（13）遺跡　出土

丸い底をもつ。文様は串などで渦巻や四角の線が描かれる。所々に貝殻腹縁文がつく。

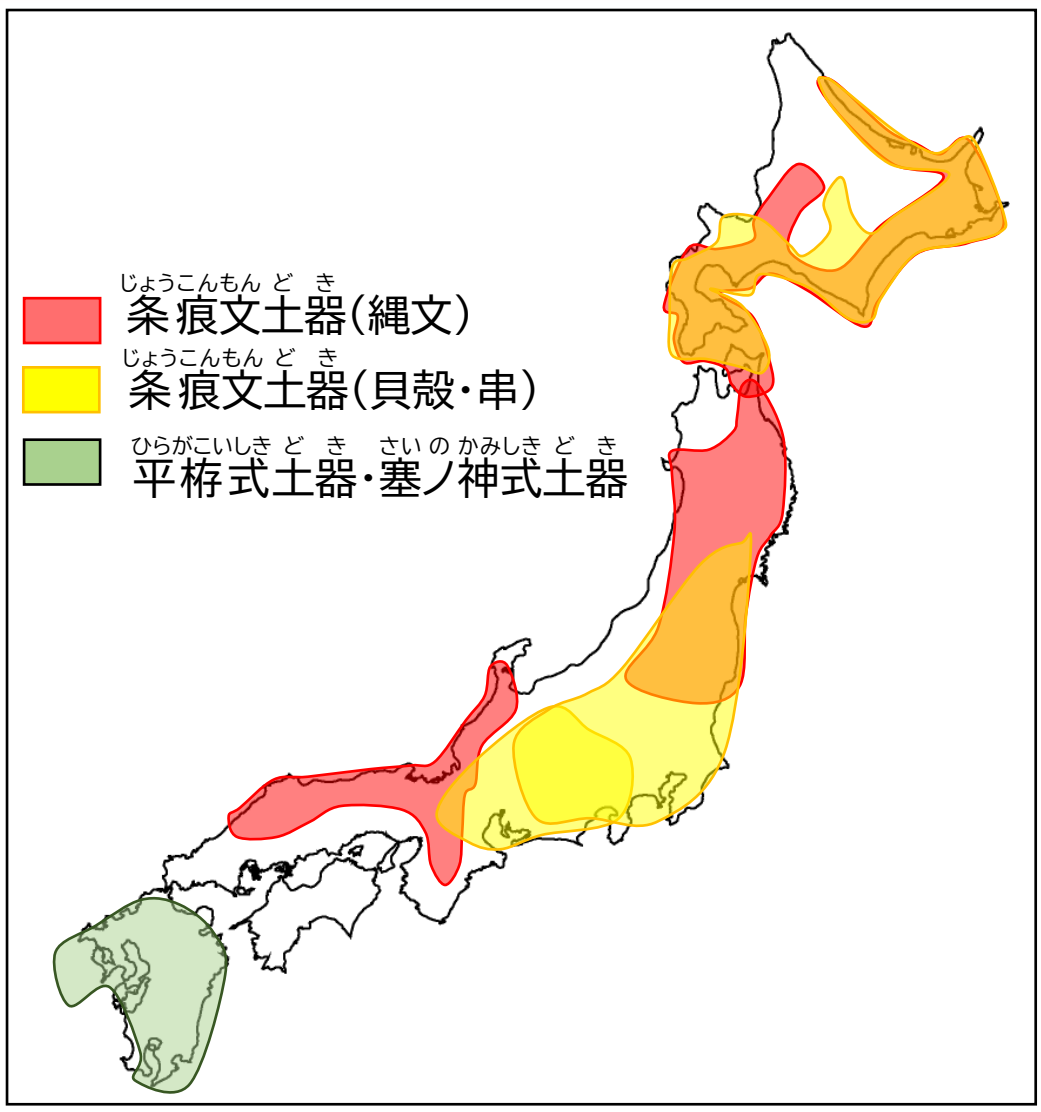


貝殻条痕文

貝殻腹縁文

東日本全体に貝殻条痕文の文様が広がる！

早期後半の主な土器 ～約 7,000 年前



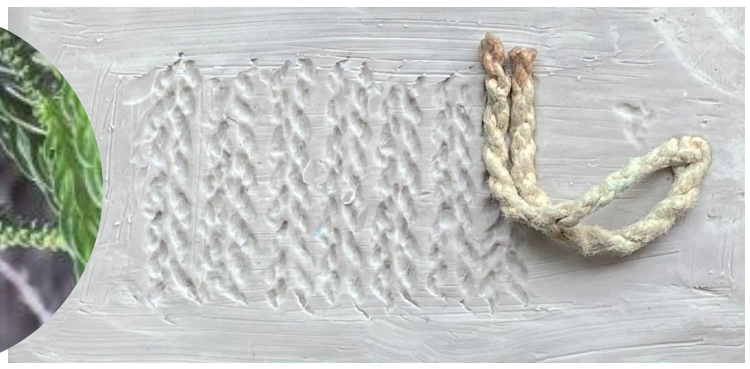
早期後半の土器分布圏

1　早稲田5類土器：約 8,000 年前

表館(1)遺跡　出土

底は小さく平たい。器の全体に綾杉文がつく。この文様はエンコウスギの葉に似ているため、この名前がついた。

エンコウ杉の葉



綾杉文

2　表館X群土器：約 7,000 年前

表館(1)遺跡　出土

底は丸みを持つ。土器全体に、縄を押し当てた側面圧痕文がつく。下部は羽状縄文がつく。

縄の側面圧痕文

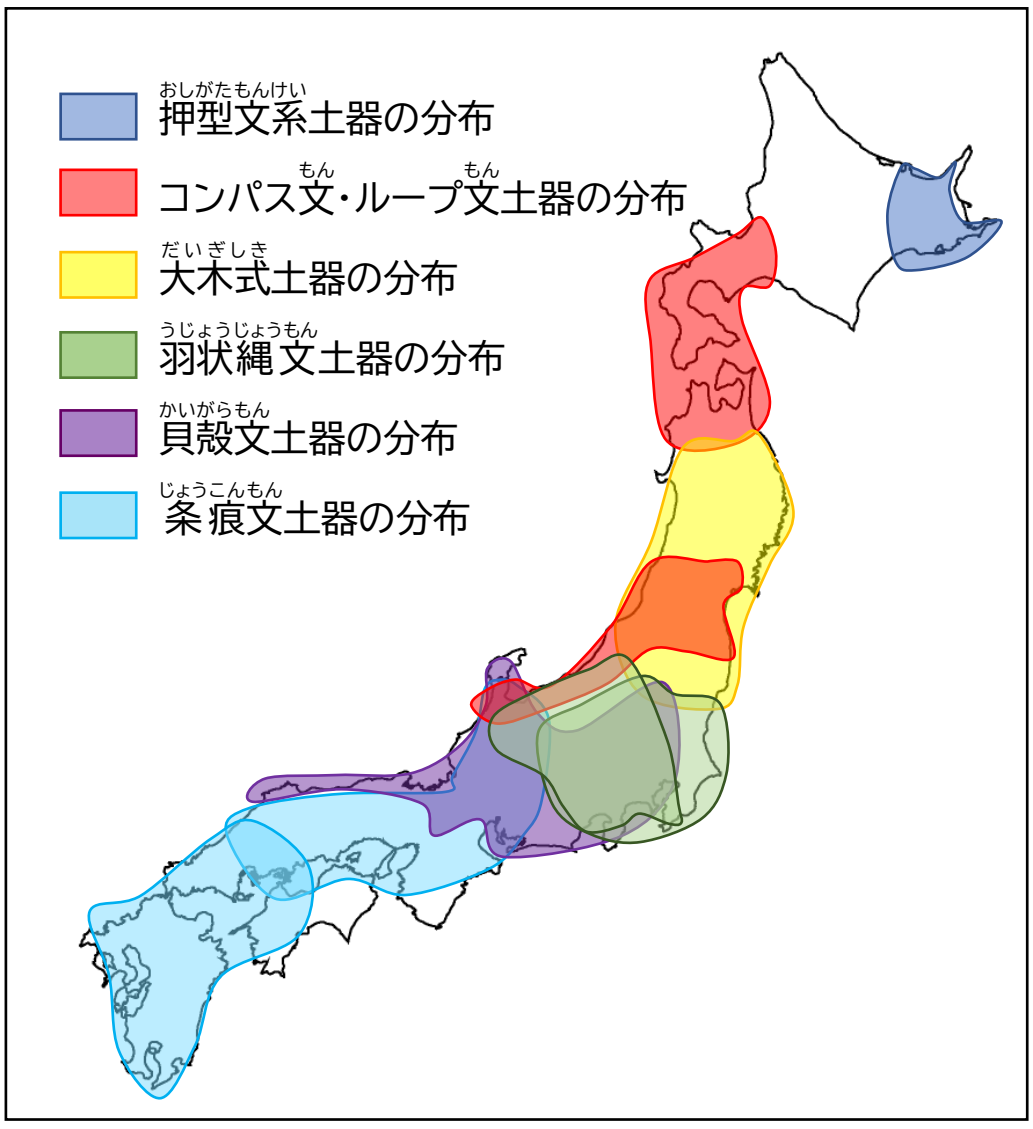
3　中茶路式土器：約 7,000 年前

発茶沢遺跡　出土

底は小さく平たい。器の全体に微隆起線文で波線文が描かれている。微隆起線文の間に縄を押し当てた文様がつく。

縄文(縄目の文様)がつく土器が東北北部へ普及！

前期前半の主な土器　約 7,000 年前～



前期前半の土器分布圏

1　長七谷地Ⅲ群:約 7,000 年前

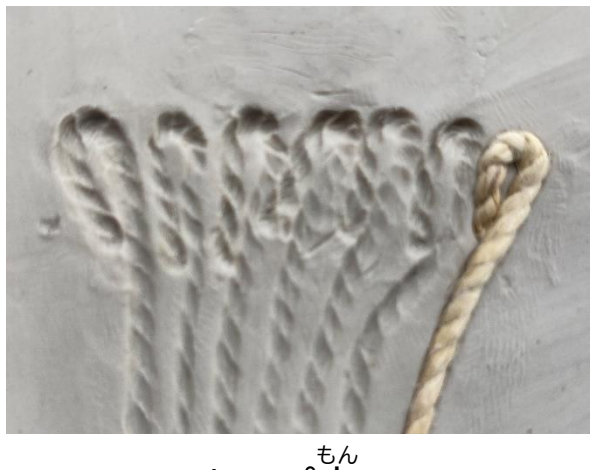
底が丸く、横方向に回転した縄文がつく。
八戸市長七谷地貝塚の発掘調査より、この名前がついた。

発茶沢遺跡　出土

2　早稲田6 類土器:約 6,000 年前

底が尖り、器全体にループ文がつく。
三沢市の早稲田貝塚の発掘調査より、この名前がついた。

上尾駮(2)遺跡　出土



ループ文

3　表館式土器:約 6,000 年前

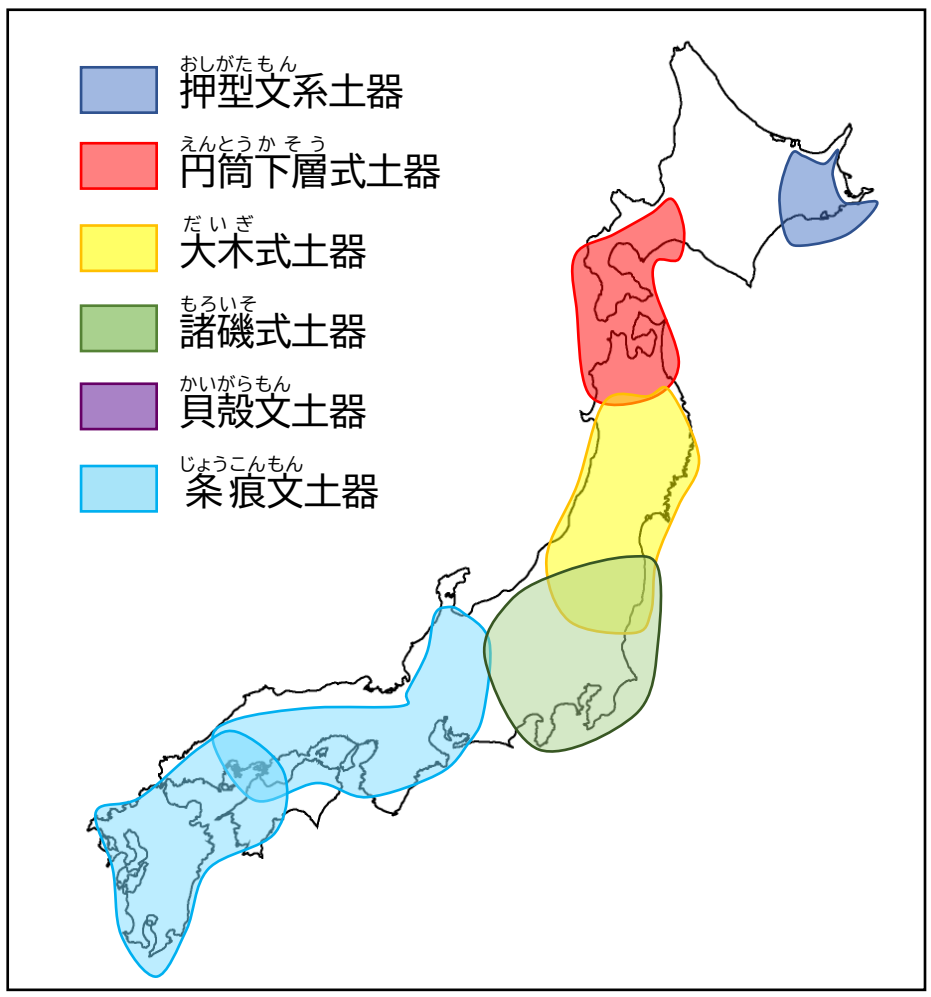
底が尖り、器全体に点列の刺突文や押引沈線文が交互につく。
六ヶ所村の表館遺跡の発掘調査より、この名前がついた。

表館遺跡　出土

押引沈線文

東北地方北部と北陸地方の文様が共通している

前期後半の主な土器　～約 5,500 年前



前期後半の土器分布圏

1 円筒下層a 式土器:約 5,900 年前

泊(1)遺跡　出土

十和田火山が噴火し(約 5,900 年前)、新たな土器が出現。底が平たい。北日本を代表する円筒土器文化の最初の土器。

2 円筒下層c 式土器:約 5,700 年前

泊(1)遺跡　出土

底は平たく、バケツのような形。器の全体には縄を巻きつけた軸で単軸絡条体第一種などがつく。この頃になると縄目に地域性が見られる。

3 円筒下層d2 式土器:約 5,500 年前

上尾駮(1)遺跡　出土

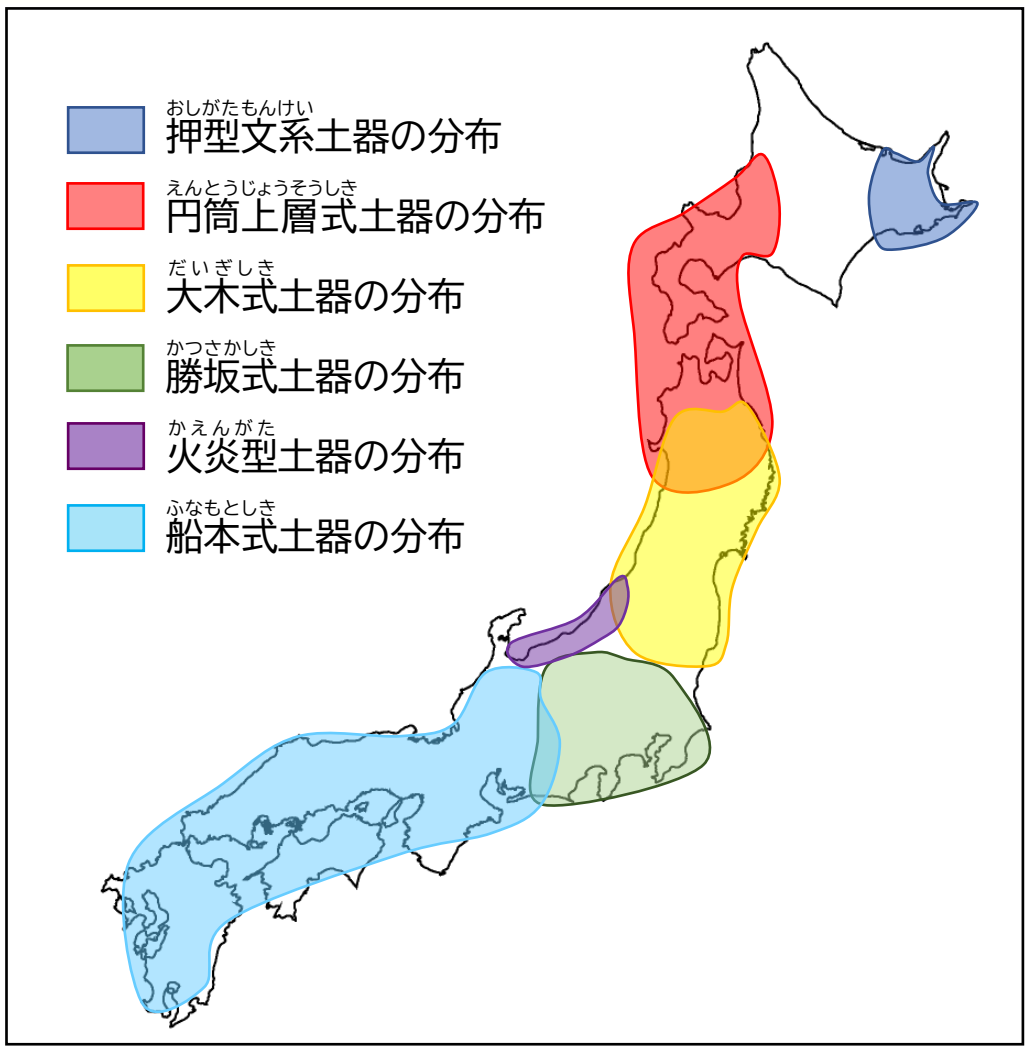
底は平たく、バケツのような形。上部の文様を付ける範囲が広がり、ひし形文などの文様がつく。下部には結束第 2 種の斜縄文がつく。

単軸絡条体

結束第 2 種斜縄文

北東北を代表する円筒土器文化の出現！

中期前半の主な土器　約 5,500 年前～



中期前半の土器分布圏

1 円筒上層b式土器:約 5,500 年前

富ノ沢(2)遺跡　出土

筒形で上部が大きく開く。粘土ひもで弧や直線を描き、隙間には縄の押圧文などがつく。胴部には羽状縄文がつく。

羽状縄文

馬蹄形の押圧縄文

粘土ひもの文様

2 円筒上層e式土器:約 5,000 年前

富ノ沢(2)遺跡　出土

上部が逆三角形に開く。沈線文によって文様が描かれ、器全体に縄文がつく。

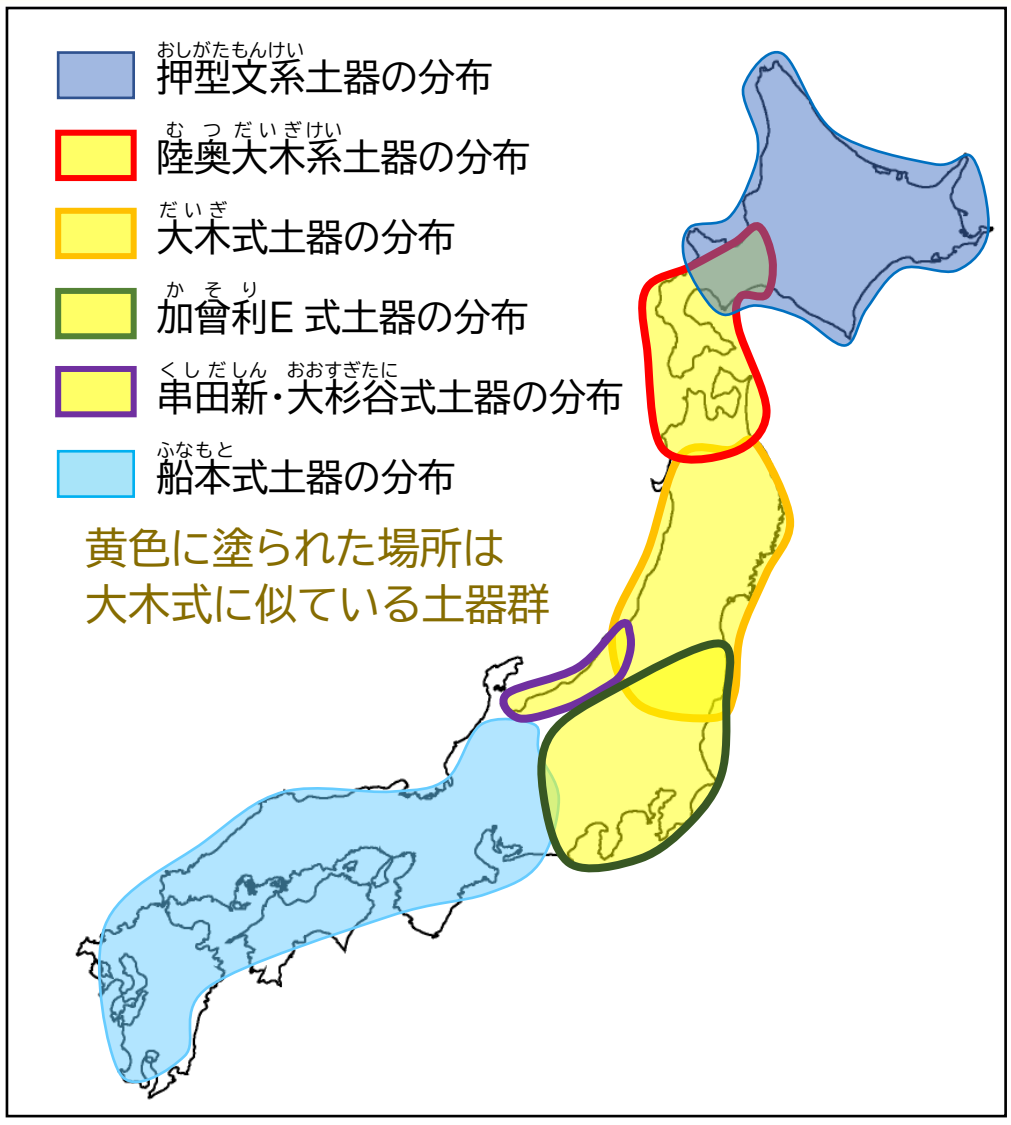
3 大木8a式土器:約 5,000 年前

富ノ沢(2)遺跡　出土

キャリパー形と呼ばれるキノコの頭のような上部が特徴的。上部に沈線文や粘土紐で渦巻文がつく。

地域によって形や文様が違う土器文化！

中期後半の主な土器　～約 4,100 年前



中期後半の土器分布圏

1　榎林式土器：約 4,500 年前

富ノ沢(2)遺跡　出土

鉢形で、全体に沈線文で渦巻文などがつく。上部がくびれ、外側に反り返る。

2　大木8b 式土器：約 4,500 年前

富ノ沢(2)遺跡　出土

鉢形で、全体に渦巻文がつく。粘土ひもを貼りつけて、その上に 2、3 本の沈線文を引く隆沈線文で描かれ、文様が浮き上がって見える。

3　最花式土器：約 4,100 年前

富ノ沢(2)遺跡　出土

鉢形で、上部と下部を点列で区切る。全体に沈線文によって縦の線が引かれ、縄文も縦方向についている。

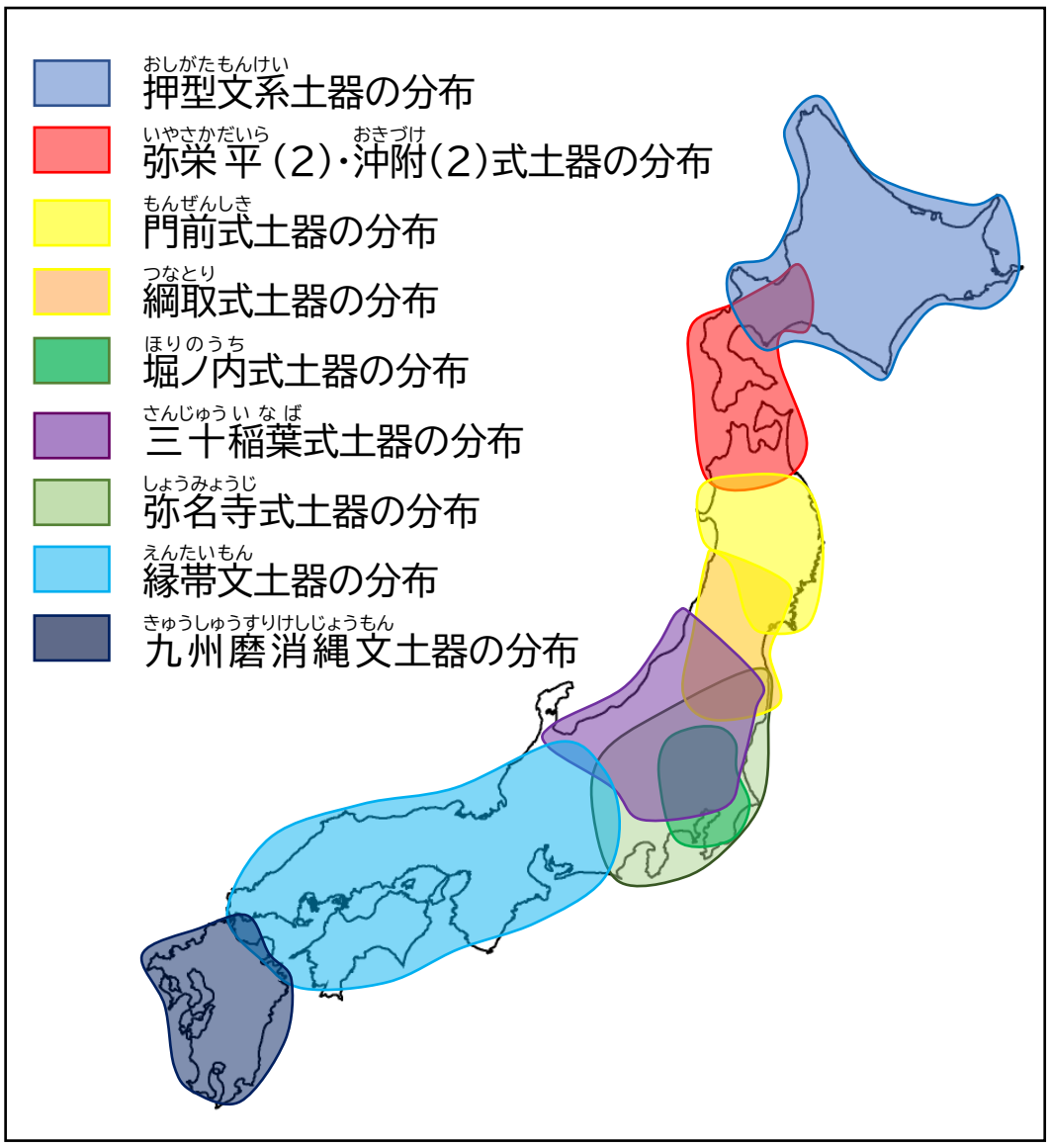
隆沈線文による渦巻文

沈線文による渦巻文

点列と縦方向の縄文

東日本全体へ広がる大木式土器文化！

後期前半の主な土器　約 4,100 年前～



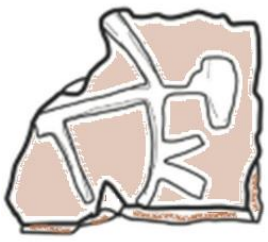
後期前半の土器分布圏

1 牛ヶ沢式土器：約 4,100 年前

沖附(2)遺跡　出土

器面全体に粘土ひもを貼りつける。三角形や四角形または狩猟文などのモチーフも見られる。

粘土ひもによる文様



狩猟文の土器片　沖附(2)遺跡　出土

2 弥栄平(2)式土器：約 4,000 年前

弥栄平(2)遺跡　出土

縁は波立ち、全体に沈線文や磨消縄文で、三角区画文や渦巻文をつける。弥栄平(2)遺跡の発掘調査より、この名がついた。

磨消縄文

3 沖附(2)式土器：約 4,000 年前

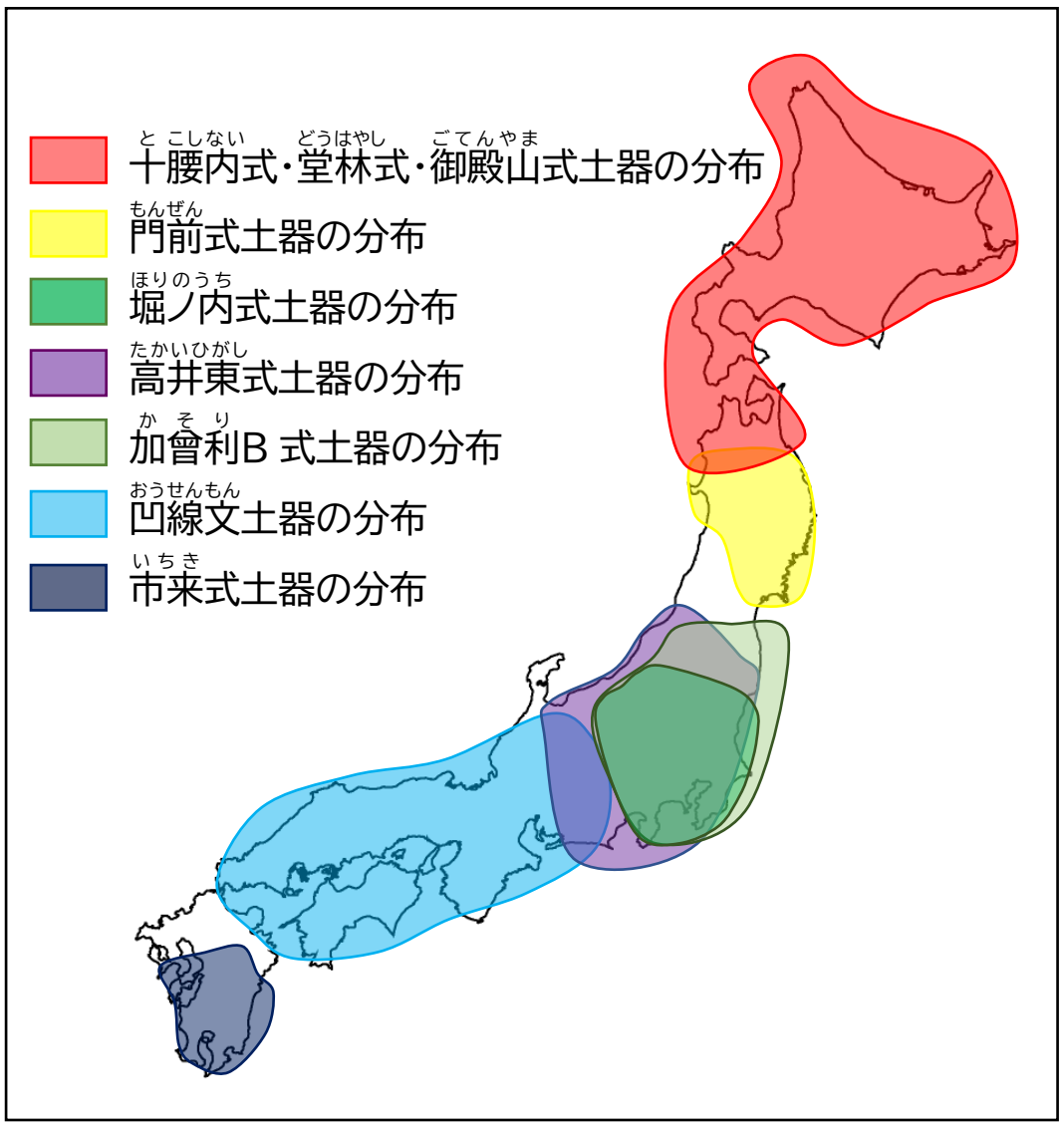
沖附(2)遺跡　出土

縁は波立ち、全体に沈線文や磨消縄文で、方形区画文をつける。沖附(2)遺跡の発掘調査より、この名がついた。

磨消縄文

大集落が衰退し、新たな土器が出現！

後期後半の主な土器　～約 3,000 年前



後期後半の土器分布圏

1　十腰内Ⅰ式土器：約 4,000 年前

大石平（1）遺跡　出土

浅鉢や甕棺土器が出現し、煮炊き以外にも用途が多用になる。沈線文や磨消縄文でクランク文などがつく。

磨消縄文

2　甕棺土器：約 4,000 年前

上尾駮(2)遺跡　出土

人骨を入れるための土器。主に上部に橋状の把手がつく。人骨を入れる際はフタとして、別の土器の底がもちいられる。

橋状把手

3　十腰内Ⅴ式土器：約 3,000 年前

上尾駮(2)遺跡　出土

磨消縄文がもちいられる。楕円形などの文様を立体的に浮き上がらせるようにつける。器面に付けられる瘤が特徴的である。

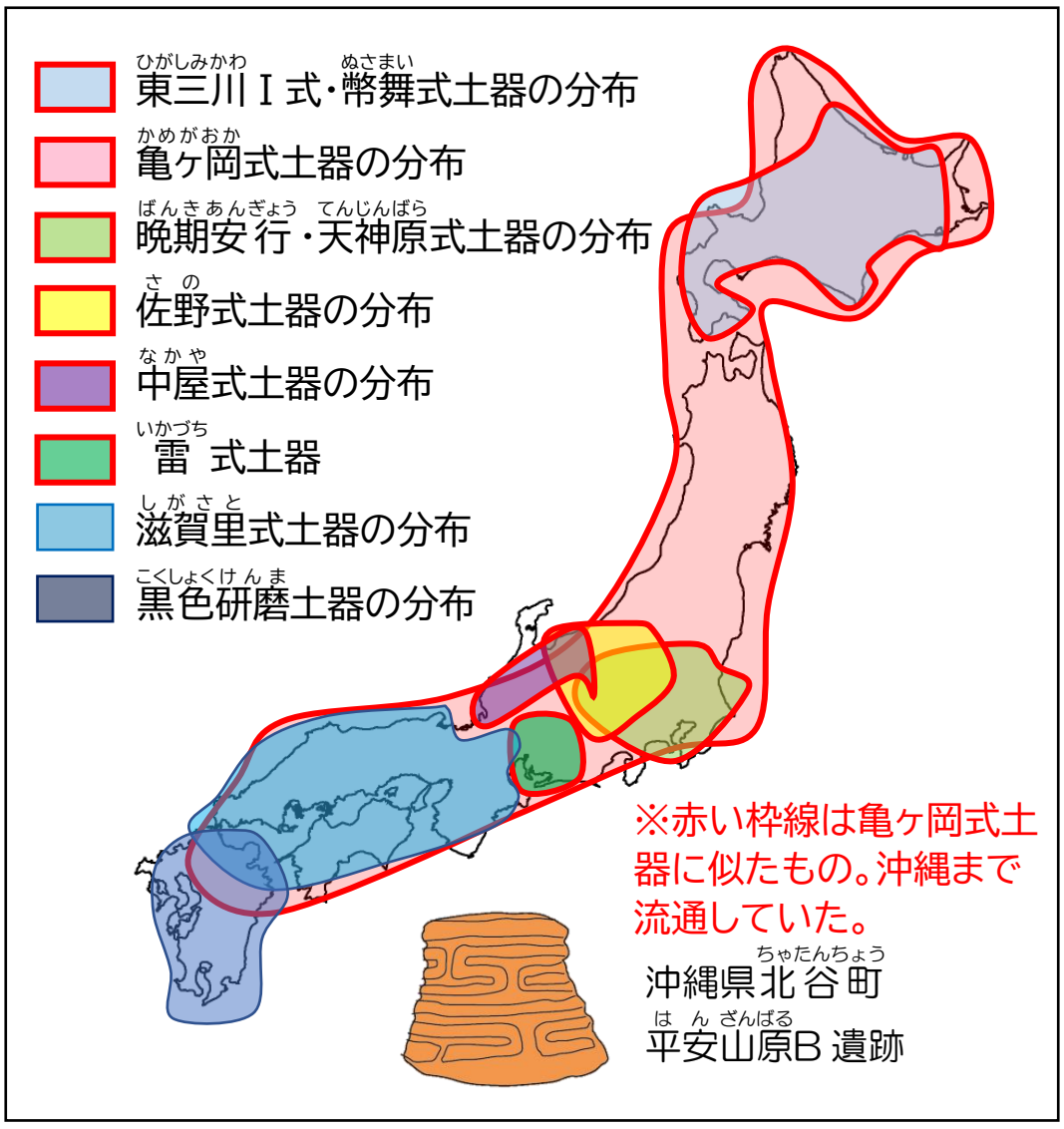
入組文

十腰内Ⅴ式土器の瘤

北日本の代表、十腰内式土器が出現！

晩期の主な土器

約 3,000 年前～
約 2,200 年前



晩期の土器分布圏

1 大洞C1 式土器(鉢):約 2,500 年前

縁を小刻みに波立たせる。器全体には、縄文をつけるだけで、複雑な文様はみられない。煮炊き用か？

上尾駮（1)遺跡　出土

2 大洞C1 式土器(皿形):約 2,500 年前

底は丸く、お椀のような形。器面に雲形文がつく。亀ヶ岡式土器の文様は一見複雑に見えるが、よく、観察すると文様のパターンが見えてくる。

上尾駮（1)遺跡　出土

3 大洞C1 式土器(壺):約 2,500 年前

縁に小さな突起をつける。沈線や、黒色の塗料で雲形文などの文様をつける。

上尾駮（1)遺跡　出土

4 大洞BC 式土器(台付鉢):約 2,500 年前

腹部に帯状に雲形文がつく。

台付鉢の文様の展開図　　一見、複雑だが、規則的な文様

上尾駮（1)遺跡　出土

亀ヶ岡式土器が日本全国へ広がる！